

## 編集後記

---

紀要第14号は2005年3月に発行されました。今回の15号は、実に17年ぶりの発行になります。その間に、本校は2006年度から私立女子校として全国で初めて文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業（SSH）に採択され、女子生徒の理系進学支援を研究課題にして、教育プログラムの開発に取り組んできました。

2014年にパキスタンのマララ・ユスフザイさん(17歳)がノーベル平和賞を受賞しました。彼女は、「なぜ銃を与えることはとても簡単なのに、本を与えることはとても難しいのでしょうか。なぜ戦車をつくることはとても簡単で、学校を建てることはとても難しいのでしょうか。」と、“女性が教育を受ける権利”を訴えています。現代にあっても、女子だからという理由で学校教育を受けられない国が存在しているのです。そして、経済的に豊かなこの日本においても、国際的にみると理系女子が極端に少ないという現実があり、今もジェンダーバイアスがかかっているとされています。

本号では、SSH事業第1期・第2期の10年間の取組みに関連した論文をまとめることにしました。

SSH指定をきっかけにして、教育内容を刷新して5年で生徒の“科学研究”で全国レベルの成果を得ることができました。10年で“科学研究”を通して他校との交流を進めることができました。そして、“科学研究”に取り組む過程で英語の運用能力育成の必要性を痛感することとなり、新しい教育プログラムとして英語ディベートを導入しました。海外での科学研究の発表に参加するようになり、国境を超えた交流も実現しました。

今、学校教育で話題になっているグローバル教育を進めていくためのヒントも、本校が10年間取り組んできた教育プログラム開発の成果の中にあると考えています。この紀要が次の時代の学校改革のきっかけになることを期待しています。

2022年3月31日 紀要編集委員会 文責 秋山 繁治